

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成19年12月13日

## 【評価実施概要】

|       |   |       |            |
|-------|---|-------|------------|
| 事業所番号 | 4271401335                                      |       |            |
| 法人名   | 有限会社 藤田企画                                       |       |            |
| 事業所名  | グループホーム佃の里                                      |       |            |
| 所在地   | 〒859-1115 長崎県雲仙市吾妻町永中名47-1<br>(電話) 0957-20-0062 |       |            |
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構                   |       |            |
| 所在地   | 〒855-0801 長崎県島原市高島2丁目7217島原商工会議所1階              |       |            |
| 訪問調査日 | 平成19年12月4日                                      | 評価確定日 | 平成20年1月15日 |

【情報提供票より】(H19年10月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

|       |                  |             |               |
|-------|------------------|-------------|---------------|
| 開設年月日 | 昭和(平成) 14年 4月 1日 |             |               |
| ユニット数 | 1 ユニット           | 利用定員数計      | 9 人           |
| 職員数   | 7 人              | 常勤 7 人, 非常勤 | 人, 常勤換算 4.2 人 |

### (2) 建物概要

|      |        |       |       |
|------|--------|-------|-------|
| 建物構造 | 平屋造り   |       |       |
|      | 1 階建ての | 1 階 ~ | 1 階部分 |

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

|                     |            |                |          |
|---------------------|------------|----------------|----------|
| 家賃(平均月額)            | 10,500 円   | その他の経費(月額)     | 実費 円     |
| 敷金                  | 有( 円)      | (無)            |          |
| 保証金の有無<br>(入居一時金含む) | 有( 円)      | 有りの場合<br>償却の有無 | 有/無      |
| 食材料費                | 朝食         | 300 円          | 昼食 350 円 |
|                     | 夕食         | 350 円          | おやつ 0 円  |
|                     | または1日当たり 円 |                |          |

### (4) 利用者の概要(10月1日現在)

|       |         |         |         |
|-------|---------|---------|---------|
| 利用者人数 | 9 名     | 男性 2 名  | 女性 7 名  |
| 要介護1  | 3 名     | 要介護2    | 2 名     |
| 要介護3  | 1 名     | 要介護4    | 2 名     |
| 要介護5  | 1 名     | 要支援2    | 0 名     |
| 年齢    | 平均 90 歳 | 最低 81 歳 | 最高 96 歳 |

### (5) 協力医療機関

|         |                  |
|---------|------------------|
| 協力医療機関名 | 永吉病院 愛野記念病院 土井歯科 |
|---------|------------------|


## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

古くからある集落の名「佃」を冠された当事業所は、小学校や静かな家並が続く通りに沿って立ち着いた佇まいを持っている。朝夕職員により掃き清められた外回りには、近隣住民との日々の交流で、話題の一つともなる花が植えられており、同敷地内の整骨院、デイサービス施設を訪れる人を和ませている。代表者が開設時に掲げられた「家庭的な安らぎのある生活を応援します」という理念と日々のケアの指針として「慈しみの心を持って接します」の言葉を、管理者と職員は如何なる時も心に留めて利用者への支援を行い、共に生きる日々を充実させている。開設当初より携わっている管理者は職員と共に地域密着の意義、必要性と、利用者本位の暮らしの支援を強く意識しておられ、利用者、その家族が寄せる信頼も厚く、さらなる改善に向けて積極的に取り組んでいる姿が印象的である。

## 【重点項目への取り組み状況】

|      |   |
|------|---|
| 重点項目 | 前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)  |
|      | 前回の評価後、着実に改善に取り組まれている。改善計画シートも作られているがその取り組みのプロセスが確認できるよう計画内容、評価の記述がより詳細であることも今後は期待したい。又、改善項目の内容によってはその取り組みにあたって、代表者の協働が強く望まれる。  |
| 重点項目 | 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)   |
|      | 管理者並びに職員は、「評価は日々の支援を振り返り新たな気持ちで向き合うもの」として大切さをその度実感し、意義をよく理解されている。スタッフが項目毎にそれぞれの気付きを伝え合い、管理者が集約するという形で全員で評価に取り組んでいる。   |
| 重点項目 | 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)  |
|      | 現在の開催は4ヶ月に1回であるが、会議の重要性を感じており、おおむね2ヶ月に1度の開催を目標としている。外部評価の結果報告の際は忌憚のない意見を頂き、改善に向けての大きな力となった。活発な論議が期待される中、今後もテーマを設け意見を仰ぎ、会議を活用してのサービス向上が期待される。                                  |
| 重点項目 | 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)  |
|      | 管理者は家族の面会時、電話連絡時には話しやすい雰囲気作りを意識し家族との信頼関係の中で個人的に意見を引き出すことに努めている。さらに苦情、意見の聴取に配慮し「意見箱」を設置している。家族会は家族交流の場となっているが、今後は推進会議への参加と並行して意見交換、表出の場としても発展、機能していかなることを期待したい。                |
| 重点項目 | 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)  |
|      | 町内の小、中学校との交流もあり、また隣接するデイサービス施設に通われる地域の方から、地元の人々、芸能大会といった様々な催しの情報が得られ参加することができている。管理者は地域との支え合いを重要と開設当初より認識し、日常の挨拶から馴染みの関係を築いてこられたが、地元住民として代表者が率先し、自治会等地域の方との関わりを持つといった協働が望まれる。 |

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

| 外部                    | 自己 | 項目   | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)   | ( 印 ) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取組んでいることも含む)  |
|-----------------------|----|--|---|-------|---|
| <b>. 理念に基づく運営</b>     |    |  |   |       |   |
| 1. 理念と共有              |    |  |   |       |   |
| 1                     | 1  | 地域密着型サービスとしての理念<br>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている                  | 「家庭的な安らぎのある生活を応援します」という理念の実践を、地域に根ざし、地域との支え合いの中でこそ可能とし目指している。   |       |   |
| 2                     | 2  | 理念の共有と日々の取り組み<br>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる                                     | 理念の実践にあたって、「慈しみの心で接します」を大切な合言葉としている。スタッフは事業所内に掲示された言葉を朝のミーティング時、あるいは各自支援の合間に確認し、念頭において日々の介護に反映させている。  |       |   |
| 2. 地域との支えあい           |    |  |   |       |   |
| 3                     | 5  | 地域とのつきあい<br>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている               | 隣接するデイサービス施設へ来られる地域の方から、老人会・芸能大会といった行事の情報を得ることで参加する機会を得られている。また、町内の小・中学校の福祉体験や訪問の受け入れもされている。しかし、管理者が地域とのつながりの重要性を認識し、日々の交流に努めているが、自治会には加入しておらず、より進んだ支援、協力を受けるに至っていない。 |       | 災害時(特に夜間)の近隣の協力体制、運営推進会議への参加協力を求めていくにあたって、自治会加入は足がかりとして重要である。自治会を主とした近隣との関係作りに、古くからの地元住民である代表者の果たす役割は大きい。今後、地域に向けて事業所からのより積極的な働きかけをする為、代表者がスタッフと話し合う機会を持ち地域との関わりを意識した協働が望まれる。 |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 |    |  |   |       |   |
| 4                     | 7  | 評価の意義の理解と活用<br>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる                 | 管理者及び職員は評価の意義や活用法をよく理解し、評価後は全員で話し合い、改善に取り組んでいる。自己評価はスタッフ全員で気付きを伝え、集約するという形で取り組むことができている。  |       |   |
| 5                     | 8  | 運営推進会議を活かした取り組み<br>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 現在は4ヶ月に1回の開催で、メンバーは利用者家族、地域包括支援センター職員、民生委員、管理者、計画作成担当者、職員で構成されている。外部評価の結果とその後の取り組みを報告し、意見を頂いて検討している。今後は、2ヶ月に1回の開催を目指しその都度話し合うテーマを設けるなど会議を活用していきたいと希望している。             |       | 地域住民の会議参加は事業所の地域密着の部分で大切なモニターの役割を果たしており、代表者も会議に参加することで地域と密接なつながりを持つ機会が生まれ事業所の実情を改めて知ることができるので、会議において共に評価と改善に向き合うという代表者の協働が望まれる。   |

グループホーム 佃の里

| 外部              | 自己 | 項目  | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)  | (印) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取組んでいることも含む)  |
|-----------------|----|---|--|-----|---|
| 6               | 9  | 市町村との連携<br>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる                               | 運営推進会議メンバーである民生委員とは、地域のことも含め気軽に相談ができる関係であり、連絡協議会参加の機会も含めて市町村との情報交換の場を今後広げていく予定である。   |     |   |
| 4. 理念を実践するための体制 |    |   |  |     |   |
| 7               | 14 | 家族等への報告<br>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている                              | ホーム便りである「佃の里通信」は3,4ヶ月に1回家族宛に発行送付し、日常、行事での写真を多く盛り込み生活の様子を伝えている。面会時に口頭で報告するが、面会にあまり来られない家族、また必要時には随時電話で伝えている。金銭出納帳は毎月家族に確認してもらっている。                                      |     |   |
| 8               | 15 | 運営に関する家族等意見の反映<br>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている                                | 家族が意見、不満等を伝える場面づくりを考慮している。家族会はあるが、利用者と共に交流会という形であったり行事参加の際に家族同士での話し合いの機会をつくらうとするが、なかなか意見交換までには発展しない。意見箱も設置したがまだ反応はほとんどない。  |     | 運営推進会議への家族の参加をきっかけに、家族会での交流も継続しながら気軽に意見、要望が話せる機会を増やしていかれることと、意見箱の活用への工夫としてアンケート用紙の郵送など、試みの継続を期待したい。 |
| 9               | 18 | 職員の異動等による影響への配慮<br>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | 現在は離職者もほとんどなく、職員の協調と馴染みの関係からなる安心できるケアを、利用者、家族共に喜ばれている。   |     |   |
| 5. 人材の育成と支援     |    |   |  |     |   |
| 10              | 19 | 職員を育てる取り組み<br>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている              | 研修参加を改善目標としており、取り組みを継続中として今後は多方面から情報を収集し、外部研修へ随時参加していく予定である。研修受講者からの伝達、報告はミーティングの折に行っている。隣接する同法人内の整骨院と合同の勉強会を計画しており、相互理解を深め、互いのノウハウを学びあうことを目的とし、今後は法人内の他施設との機会も期待している。 |     |   |
| 11              | 20 | 同業者との交流を通じた向上<br>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている    | スタッフは他の事業所との交流によりサービスの質の向上を図りたいと希望している。連絡協議会にも参加しているが、運営推進会議のメンバーである民生委員の橋渡しにより近隣の事業所との交流が開始、情報交換会を予定し、今後の発展も含め心待ちにしている。   |     |   |

| 外部                               | 自己 | 項目   | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)  | (印) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取り組んでいることも含む) |
|----------------------------------|----|--|--|-----|-----------------------------------|
| <b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>        |    |  |  |     |                                   |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応        |    |  |  |     |                                   |
| 12                               | 26 | <p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p> | <p>デイサービスからの移行という入所のケースもあるが、安心してサービス利用が開始できるよう家庭、病院訪問を行っている。利用者の心身が落ち着いてホームに馴染んでいけるよう家族と密に連絡を取り合い、見守る配慮をされている。</p> |     |                                   |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援        |    |  |  |     |                                   |
| 13                               | 27 | <p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>                      | <p>喜怒哀楽の感情を共有することで、共に暮らす関係作りを築き深めている。利用者の年長者としてその「知恵袋」から、時にスタッフは様々な生活の知恵を授かっている。</p>                               |     |                                   |
| <b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b> |    |  |  |     |                                   |
| 1. 一人ひとりの把握                      |    |  |  |     |                                   |
| 14                               | 33 | <p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>   | <p>利用者の生活歴、できる事、できない事等、アセスメントに沿って、その時々本人の意向、思いの把握に努めながらコミュニケーションを絶やさず、日々の介護に取り入れている。</p>                           |     |                                   |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し   |    |  |  |     |                                   |
| 15                               | 36 | <p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>        | <p>本人や家族の意向を取り入れアセスメントを実施し、計画作成担当者だけでなくスタッフ全員で介護計画作成に取り組んでいる。</p>  |     |                                   |
| 16                               | 37 | <p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>    | <p>計画作成担当者は日々現場での事実、気付きを重要としている。スタッフの報告・意見を聞きながら三ヶ月に一回見直しを行い、また利用者の変化に伴いその都度サービス担当者会議を行い、計画の見直しを全員で検討している。</p>     |     |                                   |

グループホーム 佃の里

| 外部                          | 自己 | 項目   | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)   | (印) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------------------|----|--|---|-----|-----------------------------------|
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援           |    |  |   |     |                                   |
| 17                          | 39 | 事業所の多機能性を活かした支援<br>本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている                             | 敷地内のデイサービスにはレクリエーションとしてボランティアの訪問が年に数回あり、ホームの入居者も楽しむことができる。外泊はないが、家族との外出も要望に応じて対応している。                 |     |                                   |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 |    |  |   |     |                                   |
| 18                          | 43 | かかりつけ医の受診支援<br>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している              | かかりつけ医への受診は、家族に健康状態を把握して頂いてほしいとの思いから家族対応をお願いしている。緊急時の場合はスタッフが支援し、結果は家族へ電話で報告している。                     |     |                                   |
| 19                          | 47 | 重度化や終末期に向けた方針の共有<br>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | 医療連携体制加算の指定を受けているので、重度化や終末期にむけた意思確認を家族と話し合い文書にて同意も得られている。かかりつけ医と連携をとりつつ状況変化に応じた見直しと家族との話し合いを念頭に置いている。 |     |                                   |
| . その人らしい暮らしを続けるための日々の支援     |    |  |   |     |                                   |
| 1. その人らしい暮らしの支援             |    |  |   |     |                                   |
| (1) 一人ひとりの尊重                |    |  |   |     |                                   |
| 20                          | 50 | プライバシーの確保の徹底<br>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない                          | 入居者一人一人の状況に配慮し、自尊心を大切に、わかりやすい言葉かけにスタッフは努めている。記録、書類等は事務室にてきちんと管理されている。                                 |     |                                   |
| 21                          | 52 | 日々のその人らしい暮らし<br>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している            | レクリエーションの時間などをおおよそその一日の流れの中で設けているが、居間のソファでくつろいだり居室で午睡したりと自由に思い思いに過ごされている。                             |     |                                   |

グループホーム 佃の里

| 外部                           | 自己 | 項目   | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)  | ( 印) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------------------|----|--|--|------|-----------------------------------|
| (2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 |    |  |  |      |                                   |
| 22                           | 54 | 食事を楽しむことのできる支援<br>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている    | 配膳、下膳は可能な方にはお手伝いをしている。介助が必要な利用者もおられるが、改善の指導後から入居者と職員と一緒に食事をするようになり楽しい雰囲気を保たれている。                                     |      |                                   |
| 23                           | 57 | 入浴を楽しむことができる支援<br>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している   | 入浴支援は週4日としているが、入居者の希望、体調に応じている。入浴拒否者はおらず、入居者の身体の清潔保持に努めて支援されている。   |      |                                   |
| (3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 |    |  |  |      |                                   |
| 24                           | 59 | 役割、楽しみごと、気晴らしの支援<br>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 食事の支度を積極的に関わってくださる入居者には下拵えや食器の片付けをして頂いたり、外回りの花の手入れなど、園芸に関心のある方もおられる。入居者の状態に応じて役割、お手伝いをお願いしている。                       |      |                                   |
| 25                           | 61 | 日常的な外出支援<br>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している                   | 敷地内にあるデイサービス施設前のカーポートの下で日光浴を好まれる入居者には、日々希望がある毎に対応している。買い物も希望があればドライブを兼ねてスーパーや衣料品店等に出かける支援がなされている。                    |      |                                   |
| (4)安心と安全を支える支援               |    |  |  |      |                                   |
| 26                           | 66 | 鍵をかけないケアの実践<br>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる          | 日中は鍵をかけられていない。デイサービスの利用者が気軽に立ち寄りすることもでき、近隣の方も訪ねやすくなっている。   |      |                                   |
| 27                           | 71 | 災害対策<br>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている      | 避難訓練は、年2回連携をとっている地域の消防団立会いのもと、夜間想定での訓練を行っている。近隣住民にも理解を得て協力を求めているが、高齢者世帯が多く、今後は推進会議にも図り、地域住民との協力体制をより深めていきたいと考えておられる。 |      |                                   |

グループホーム 佃の里

| 外部                        | 自己 | 項目   | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)  | (印) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取り組んでいることも含む) |
|---------------------------|----|--|--|-----|-----------------------------------|
| (5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 |    |  |  |     |                                   |
| 28                        | 77 | 栄養摂取や水分確保の支援<br>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている                                   | きざみ、とろみの形態食により、個別対応をしている。入居者の好みも取り入れつつ野菜を多く使用し、薄味を心がけた家庭料理としての献立をたてている。水分量は一日1800ccを目安にとって頂くよう管理している。  |     |                                   |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり   |    |  |  |     |                                   |
| (1)居心地のよい環境づくり            |    |  |  |     |                                   |
| 29                        | 81 | 居心地のよい共用空間づくり<br>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | リビング、食堂は天井も高く広々と明るい。清掃が行き届いた共用空間のあちこちに置かれたパンジーの鉢植えが暖かく、優しい雰囲気を与えている。浴槽の深さ、流し台の高さの問題は前回評価で指摘されていたが、浴槽に器具を取り付け、流し台の高さはスノコで調整するなど改善がなされている。共用空間は、床からの底冷えが厳しいのでひざ掛けなどの配慮でカバーされている。 |     |                                   |
| 30                        | 83 | 居心地よく過ごせる居室の配慮<br>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている                    | 各居室に広く使いやすいトイレがあり入居者に喜ばれている。馴染みの家具が持ち込まれ、植木鉢や小物など好みの物で囲まれた個々がくつろげる空間となっている。  |     |                                   |